

【エントリー情報】

自治体名：厚木市教育委員会
学校名：厚木市立南毛利小学校
ご記入者：小林 憲輔
ご役職：
電話番号：

【設問】

① 貴自治体・貴校で目指している目標（ビジョン）・目標に至った背景・想いを教えてください。

（1,500文字以内）※可能な限り自治体や学校全体の目標をご記入ください。

まず、背景として神奈川教育ビジョンの「未来を拓く・創る・生きる 人間力あふれるかながわの人づくり」を受け、厚木市教育振興基本計画の基本目標「挑戦・共生・創造」を意識して本校の教育目標の「大楠の木のもとで より良く深く考えて やさしく あかるく たくましく生きる子をはぐくむ」を設定している。

変化の激しい予測困難な時代を生きるためには、児童一人ひとりが変化を前向きに受け止め、主体的に関わり合い、その過程で人間ならではの感性や判断力を培っていく力の育成が必要であり、そのためには「Ⅰ 情報を探し出し」「Ⅱ 意味を理解し」「Ⅲ 評価・熟考する」力が必要になってくる。まさに、Society5.0時代を生きる子どもたちに求められるのは、「様々な情報の中から、自ら課題を見つけ出し、それを解決するための情報を集め分析し、新しい価値を生み出せる力」である。

このような背景の中、令和3年度より1人1台クロームブックが教育委員会より支給され、それと同時に厚木市の GIGA スクール構想の推進モデル校として指定を受けた。本校の研究主題は「学び合って、より良く深く考える子を育てる～クロームブックを活用した授業づくりの工夫～」である。学び合うためには、お互いの考えを肯定的に共感する姿勢から「共生すること」につながると考えている。より良く深く考えるためには、1つの結果を終着点とせず、更に情報を再度整理して吟味するという意味で「挑戦や創造」につながると考えている。

クロームブックを活用した授業づくりでは、児童に合わせた教材の提供や、視覚的に情報を得ることや話し合いを深めるためのツールとして効果的だと感じている。また、大勢の前で話すことが苦手な児童であっても、デジタルデバイスによるコミュニケーションであれば自分の考えを発言しやすいというアンケート結果もあり、児童の主体性を引き出し、未来を切り拓くチャンスと考えている。

② 目標（ビジョン）に向けた具体的な個人のお取り組み・学校全体でのお取り組み、学校の枠を超えて市や他校へ広がったお取り組みや、その中で発生した課題や苦勞を教えてください。（1,500文字以内）

本校では、令和3年度より厚木市GIGAスクール推進モデル校として校内研究とリンクし、3年計画を作成し学校全体で取り組むこととした。1年目は、とにかくクロームブックを使用し、実践事例を残していくことを目指した。教員が全員使用することができる環境の構築に重点を置き、事例の情報交換の時間を多く取った。その成果もあり、校内での使用頻度にバラつきはあるものの全職員がミライシードの基本的な使い方はマスターしていった。2年目は各学年で効果的な使用事例を残していくことを目指した。1年目の実践の中で効果的だと感じた道徳科のムーブノートを使用した授業実践を、高学年全体で取り組むことにした。授業の流れを導入からまとめまで5枚のノートに分けられる機能が活用しやすく、発問に対する自身の考えも自由記述や、選択式にできること、学び合いも全体の広場だけでなく、グループで広場を活用できるところもとても効果的だと感じた。更に、本校は1学年5クラスの大規模校であることも考え、授業の流れをテンプレートで作成することで、どのクラスでも同じパターンの授業を展開できると考えた。

実際に授業を行うなかで、タイピングに不慣れな児童は時間内に自分の考えを打ち込むことができないなど、授業進行に遅れが生じることもあった。そこで、発問数の削減や記述を選択式にするなど内容を変更し、話し合える時間の確保に重点を置いた。それでも、授業が予定通り進まず、発問を飛ばして行わなければならない状態であった。そこで、学校全体で「GIGAの日」を設定し、児童がタイピングやクロームブックに慣れ親しむ時間を毎週確保した。その結果、高学年の児童はクロームブックにも慣れ、スムーズに操作できるようになってきた。また、発問に対する回答でも課題が浮き彫りになってきた。児童が、みんなに見られることから、本音ではなく、いわゆる模範回答的に答えているのではないかという疑問が生じた。自分の考えや思いを素直に出せないということは、教科の本質から外れることであり、大きな問題だと捉えた。ムーブノートのみんなの考えを共有できる機能はとても良いが、見られることによる弊害もあることがわかった。そこで、オクリンクであれば、それぞれの考えを見られない機能もあるので並行して使用することを考えたが、そこには、ムーブノートとオクリンクを並行して使用することの操作の手間や無駄な時間、授業の流れが途切れてしまうなど、クロームブックの使用を苦手とする教員には重荷にしかならないことがわかった。

また、ペアやグループで話し合う場でも課題が見えてきた。話し合う時に、発表者も聞く方もクロームブックの画面に集中してしまい、顔を見ずに話し合いを行う児童が多く、発表し合う場になってしまった。これでは、本校の目指す「学び合い」とはかけ離れた授業になってしまうことに気づき、3年目は、GIGA推進のまとめとして、「学び合い」に重点を置いた効果的なクロームブックを使用した授業づくりの工夫として現在取り組んでいる。道徳科でもこれまでの課題点から試行錯誤を重ね、ムーブノートと道徳ノート、デジタルとアナログのハイブリッド授業として取り組み、課題点となっていた部分も解消でき、効果的に活用できている。また、話し合いの場では、自分のクロームブックの画面を相手に見せながら伝えたり、クロームブックをグループで1台にするなど、話し合いをメインとしたクロームブックの使用を工夫し、お互いの顔が見えるなかでの話し合い方法が身につく、スムーズに話し合いが展開されるようになった。

③ (3-1) ICT を活用することで、先生のご指導や働き方、児童・生徒の学び方や学習への態度、学習成果などにどのような変化があったか、またこれらの変化をどのように評価されているか教えてください。(2,000文字以内)

教員の指導の場面では、ムーブノートのテンプレートで授業の流れを作成することにより、どの教員でもスムーズに同じパターンの授業を行うことができると同時に、授業の流れをイメージしやすく、教材研究の時間が短縮された。また、今まで使用していた道徳ノートを、児童が忘れても授業に参加することができ、児童の記述や考えについてもいつでも確認することができる。また、スプレッドシートに一覧で出すこともできるので、成績の取り組みが以前に比べ容易になった。

一方、児童の学び方においては3つの点が挙げられる。1つ目は、普段の話し合いで意見を言うことが苦手な児童にとっては、ムーブノートを通じて友達に自分の考えや想いを理解してもらえるようになったことが挙げられる。それと同時に、普段の発表では全員の考えを聞くことはできないが、ムーブノートの広場機能を活用すると、全員の考えを知ることができる。また、話し合う以外にも、コメント機能を使用し、友達の考えに共感や学びになったことを伝えやすくなった。

2つ目は、ユーチューブなどの動画も貼り付けられるので、視覚的効果も得られ、題材に取り上げられている人物や場所などがイメージが付きやすくなった。ムーブノートを活用し始め、児童の授業への意欲・関心も高まり、取り組み姿勢も前向きに大きく変わったように思われる。

3つ目は、選択式の回答にし、どうしてその選択肢を選んだのかの理由を明示することで、活発で盛り上がる話し合いに変わっていった。グループでの話し合い活動でも、今まで意見を伝えることが苦手だった児童も、クロームブックを介して伝えられ共感してもらえることで、自信につながり、更に自分の意見を少しずつ伝えられるようになるなどの効果が得られ、話し合いに参加できるようになり、楽しんで学ぶ姿が見られるようになった。

多くの考えや意見が視覚的に、いつでも、そして繰り返し見ることができることで、自分の考えと照らし合わせたり、また、考えがまとまらない児童にとっては友達の意見や考えを参考にしたりでき、自分の考えを柔軟に再構築し、新たな考えを生み出すことにつながっていると思われる。

教員の働き方については、初めは使い方などで戸惑う部分や、苦手意識をもつ教員ももちろんいたが、GIGA 推進モデル校として学校全体で取り組んでいこうという指針の下、やらざるを得ず、それが教材研究を助けることになり、働き方改革の一つにもつながっていったことは確かである。また、教員同士が、意欲的に聞き合い教材研究を進めていくなかで、学年の横のつながりの枠を超え、縦にもつながり校内の雰囲気さらに良くなっていったという副産物も生むこととなった。

(3-2)ICT 活用による成果について、定量的なデータでお示し可能なデータがあれば、教えてください。(1,500 文字以内文字以内) ※本設問のみ任意回答

GIGA スクール推進モデル校として、3 年前からクロームブックの使用率の高い高学年（4・5・6 年）の児童にアンケートを行った結果、「クロームブックを使うことによって、自分の意見を発表しやすくなった」の項目は、11%上昇した。また、「クロームブックを使うことによって、友達の考えがわかりやすくなった」の項目は 14%、「クロームブックを使うことによって、グループ（ペア）の意見がまとめやすくなった」の項目は 24%上昇した。3 年間で児童がクロームブックの使い方に慣れてきたこともあるが、実際の授業を見ても、話し合い活動の活用に効果が表れていると考える。

教員のクロームブックの活用意識も年々高まってきている。各学年でクロームブックを活用した取り組みを年間通じて行い、様々な教科で効果的に活用できた。

④ お取り組みの中でのミライシードの活用画面・活用機能お取り組みの中でミライシードが役立った場面・活用頂いたアプリ/機能を教えてください。

※活用エピソードが複数ございましたら、文字数制限内でご記入ください。1 つのエピソードに絞る必要はございません。(2,000 文字以内)

■ 4・5・6 年 道徳科「ムーブノート」のテンプレートを作成することによって、誰でも使用できる。その分教材研究の時間が少なくなった。授業展開を順を追って提示できスムーズに進めやすい。また、発問の回答が、自由記述と選択式で作成できたり、広場 1、広場 2 …といった各グループ広場に分けられたりする機能。全体共有では、みんなの広場やコメント・いいねなどのチャット、スタンプ機能により考えが伝わりやすい。

■ 2 年 図画工作「ふしぎなたまご」で、工程（たまご→たまごにヒビを入れる→たまごを切る→画用紙に自分の物語の世界を描ききったたまごを貼り付ける）順に撮影し、それぞれのカードにしてつなげる。タイマー機能を使い自動でストーリーが進むように設定する。Chromebook スクリーンムービー機能を使い、画面に合わせて物語を録音する。

■ 図工の鑑賞でムーブノートを使用。コメント機能でお互いの作品の鑑賞交流をすると、1 時間で全員の作品にコメントでき交流の人数も増えた。Chromebook スクリーンムービーを使い作品の紹介を録画しカードに貼り付けた。

■ 5 年 国語「よりよい学校生活のために」では、ムーブノートを使用し、話し合いの記録とした。ムーブノートのカードに色づけし付箋として使いホワイトボードミーティングとして取り組んだ。また、グループの広場で話し合いを記録することで、作業中でもほかの広場に入り参考にすることができた。

■ 5 年 国語「きいてきいてきいてみよう」では、インタビュー活動をオクリンクで録音し、原稿を書く際に使用した。インタビューでメモしきれなかった内容も書くことができた。